

● 平成30年度に実施した自校の学力調査結果 (単位:%)

教科	観 点	墨田区学習状況調査										全国学力・学習状況調査	
		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年		6年A	6年B
		目標値	本校平均 正答率	目標値	本校平均 正答率	目標値	本校平均 正答率	目標値	本校平均 正答率	目標値	本校平均 正答率	本校平均 正答率	本校平均 正答率
国語	国語への 関心・意欲・態度	73.8	72.0 77.0	68.1	△70.9 68.6	66.9	△72.2 66.8	61.9	59.6 62.3	66.9	△76.2 69.5	37.2	33.2
	話す・聞く能力	68.0	△72.8 71.3	77.1	△80.8 80.8	67.0	△73.2 67.0	60.0	△60.6 60.3	64.4	△71.4 64.3	96.2	73.1 64.6
	書く能力	76.9	66.2 79.4	59.5	△63.0 58.0	62.7	△68.2 62.6	56.0	52.6 57.4	64.1	△71.9 68.5	84.6	49.2 45.6
	読む能力	66.1	△70.4 69.0	63.6	57.9 63.8	65.0	△69.8 64.5	71.6	△81.3 74.9	69.4	△80.8 74.0	82.7	53.8 50.8
	言語についての 知識・理解・技能	90.0	85.4 94.6	81.4	△90.0 84.3	71.0	△75.6 73.8	70.4	△81.4 76.4	64.4	△76.8 69.0	71.6	
社会	社会的事象への 関心・意欲・態度					58.9	△63.4 59.0	60.6	63.6 64.1	59.0	61.2 61.4	目標値を超える △全国平均 を超える(区 調査のみ)	
	社会的な 思考・判断・表現					62.4	△64.2 62.4	56.9	54.8 59.1	60.7	61.9 62.7		
	観察・資料活用 の技能					68.9	△71.6 68.5	60.5	△60.3 60.1	64.5	△65.8 64.0		
	社会的事象について の知識・理解					68.8	△72.0 68.5	63.2	△68.9 62.9	63.6	△65.0 63.1		
算数	算数への 関心・意欲・態度	71.1	65.61 70.4	61.0	△65.9 63.3	72.5	△78.2 71.4	57.5	△58.3 51.0	40.0	△40.8 32.2		
	数学的な考え方	68.4	△81.8 67.8	67.2	△68.8 65.5	64.4	△67.4 66.5	61.1	△62.7 57.5	56.8	△60.5 53.0	53.0	49.2
	数量や図形に ついての技能	81.0	78.5 85.0	79.3	△81.7 80.5	77.6	△83.2 79.8	68.6	△67.8 66.1	68.2	△71.5 69.9	69.2	63.0
	数量や図形について の知識・理解	83.2	78.5 84.7	71.1	△72.8 70.8	74.7	△81.2 74.7	66.9	△66.6 64.4	71.3	△78.6 72.7	70.1	69.2 71.7
理科	自然事象への 関心・意欲・態度					76.3	80.4 81.0	70.5	71.2 72.7	60.7	△62.1 62.0	88.5	82.1
	科学的な 思考・表現					61.3	△69.0 64.0	63.6	△67.8 66.0	64.0	64.3 68.6	59.6	54.1
	観察・実験の技能					80.5	84.2 85.9	70.5	△79.4 75.5	68.7	61.8 72.5	61.5	71.1
	自然事象について の知識・理解					70.7	△74.5 73.4	71.3	△77.7 73.9	68.7	65.2 70.9	88.5	81.5

- 1) 目標値：学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童の割合を示したもの。観点ごとの目標値は、設問ごとに設定された目標値をもとに算出されている。
- 2) 平均正答率：正答率の平均値のこと。観点における学年のデータとして用いる際は、その観点の全設問における学年集団の正答率の平均値。なお、正答率を算出するうえで、記述・論述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として換算している。

全国学力・学習状況調査の理科については、A（知識）とB（活用）を一体的に問う調査を実施した。

● 自校における調査結果の分析

◇成果

- ①全69観点中、目標値超えは54観点（35→60→54）。全国平均超えは50観点（40→47→50）であった。「東京ベーシックドリル・ふりかえりシート」を活用した基礎的・基本的な事項の指導の成果であると考え。
- ②学年進行とともに数値も向上している傾向がある。課題解決型学習・書く活動・読書指導・復習・放課後補習等の取り組み成果があらわれはじめていると考える。

◆課題

- ①理科の「観察実験の技能」が全校的な弱みである。国語の「書く能力、関心意欲態度」、社会の「社会的な思考判断」が、やや弱みとなっている。
- ②算数では、2年生の「基礎」、3年生以上の「活用」を伸ばすことが課題である。
- ③基礎学力は定着しつつある。今後は、活用力・応用力を伸ばすことが、大きな課題である。

◎改善の方向性

- ①各教科において、課題解決型学習の定着を図る。特に理科では、観察実験の時間を確保し「問題把握・予想・実験・結果・考察」の学習プロセスを定着させる。
- ②全教科において、「考えをもつ・調べる・話し合う・発表する」等の言語活動を取り入れ、活用・応用する力を伸ばす。
- ③朝・放課後学習、家庭学習等で取り組んできた基礎学力定着の取り組みは、今後も継続していく。
- ④目標値に達していない児童を中心に、個に応じた指導（弱点の把握と的確な指導）を充実させる。